

～洛西からの一読～

今回のテーマは「SFが描いた未来」

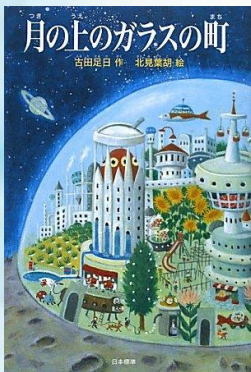
「サイエンス・フィクション」…「科学」に基づいた「空想」の作品。かつて描かれた未来が「現在」になりつつある今、世界は想像された未来より素晴らしいものになっているのでしょうか。それとも…。



われはロボット 決定版

アイザック・アシモフ／著，小尾 芙佐／訳 早川書房

「ロボット三原則」という言葉を聞いたことがありますか？後に小説や映画、まんがなど多くの SF 作品やロボット工学にまで影響を与えたこの言葉は、この『われはロボット』の冒頭の「ロボット工学の三原則」を起源としています。この本は女性のロボ心理学者が記者の取材に答えて 1998 年から 2052 年までのロボットについての話を語る、という形でまとめられた 9 つの話からなる短編集です。少女とロボットの友情を描いた「ロビィ」から始まり、宇宙空間で絶体絶命のピンチの中、互いに文句ばかり言い合いながらトラブルに立ち向かう技術者コンビの話。そしてロボ心理学者の若き日の苦い思い出。また市長選でロボットの疑いをかけられた男の話など。ミステリー要素もあり、一見不可解なロボットの行動やトラブルが三原則をヒントに解き明かされます。描かれるロボットたちはスピーディ、キューティ、ダイブなど愛称で呼ばれ、ロボット特有の生真面目さはあるものの、どこか人間臭い雰囲気があり、アシモフが彼らを愛情をもって描いているように感じます。80 年前にアシモフが想像した未来を「今」読んでみてはいかがでしょうか。



月の上のガラスの町

古田 足日／作，北見 葉胡／絵 日本標準

『おいしいのぼうけん』や『宿題ひきうけ株式会社』など、子供の頃にこの人の作品を読んだことのある人も多いのではないでしょうか？そんな古田足日の数多い作品の中でも、これは少し変わった雰囲気を持っています。何百年か後の未来、月の上のガラスの町での 6 つのできごと。「勉強、勉強！」と言うお母さんに、もっともっと遊びたいと思う子供が友達と一緒に考えた方法とは…。仕事が憂鬱な青年と悪魔が交わした契約の結末はいかに！また「ロボット三原則」が出てくる、自分がアンドロイドと知らない娘の切ない恋のお話など。SF ではありますが、古田足日特有のやさしい文章で、ファンタジーのようにも感じられます。じっくりと読んで欲しい一冊です。